

部 会 議 事 録 (まち協全体会資料)

部 会 名	片瀬・江の島まちづくり協議会 全体会
会 議 名	令和4年度 第4回片瀬・江の島まちづくり協議会
開 催 日 時	2022年(令和4年)7月21日(木) 午後3時30分から午後5時20まで
開 催 場 所	片瀬市民センター ホール
出 席 者	委 員：18人(総数 23人) (出席者) 甘粕副会長、澁谷副会長、徳江副会長、飯森委員、 藤原委員、小川委員、甘粕委員、阪井委員、岩田委員、 渡辺委員、吉見委員、岡田委員、山口委員、甲斐委員、 福島委員、近藤委員、保川委員、西永委員 事務局：5人(出席者 森井主幹、下間、國松、吉岡、富樫)
報 告	(1) 郷土文化推進部会 ・8月6日(土)「片瀬こま夏大会」開催 ・年間計画について (2) ボランティアセンター運営委員会 澁谷副会長 ひだまり片瀬、夏休みキッズ将棋教室、片瀬にここ広場、 ボラセン8月のお知らせについて説明 (3) 人材・情報バンクセンター運営委員会 らぶらぶ片瀬について説明 (4) 青少年健全育成部会 7月4日第2回部会報告 ※事務局へ意見 9月まで所属していない部会の参加も可としていることから、 他部会に興味を持つためにも、議事録を用意してほしい (5) 生活環境協議会 ・海の日に7月18日 神奈川美化財団主催 「街角美化キャン ペーン」実施について (6) 社会福祉協議会 ・地域在住の新1年生への社協からのお祝いの品として、クール タオルを配布。
議 題	(1) 検討課題・事業一覧について (2) まちづくり通信第42号について (3) 意見交換について テーマ「地域のつながり」

<p>議題に対する検討 事項・決定事項・ 意見等</p>	<p>(1) 検討課題・事業一覧について 資料2 前回承認をいただいたことから、確定版となる。</p> <p>ア 広報事業ワーキンググループについて 委員決定。委員4人と事務局2人。速やかに日程調整を行い、活動を開始する。</p> <p>イ 片瀬山公園整備の勉強会 片瀬山整備の勉強会について、現在2名。 参加者希望者の確認。希望者なし。</p> <p>(2) まちづくり通信第42号について 資料3 42号の暫定の形式について説明。地域団体の内容については8月の全体会で説明し、9月10日号で配布する予定。 令和4年新規体制、地域団体や商店会、江の島振興連絡協議会等の紹介。各地域団体担当の担当職員とまち協委員、団体代表と調整を依頼。</p>
	<p>質問 掲載する順番は？ 回答 36号は開いた中面と一番後ろのページに地域団体の紹介を乗せるスペースになっている。各団体が提出する掲載内容で事務局が調整する。</p> <p>質問 ここ2年活動できていない。写真が昔のものになる。 回答 過去の写真で構わない。各団体で相談してほしい。スペース的に欄を確保できないので、力を入れている事業を載せてほしい。</p>
<p>(3) 意見交換について 第3回の意見交換の内容 資料4-1 これまで2回の意見交換を行い、それぞれの問題に共通するテーマは「地域のつながり」である。 本日意見交換のテーマは「地域のつながり」。 今回、意見交換を行い最終とする。次回以降は必要であれば再度意見交換を行う。</p>	
<p>昨年“東り町アートフェス”というアートと地域の商店会をつなげるイベントが開催された。このイベントを開催した目的や内容など資料をもとに説明</p>	
<p>質問 今後の継続が大切だが、今後継続していくうえで、どのようなモチベーションをもって取り組んでいる？ 回答 去年は自分から企画して、自らが主体として活動したが、今年は商店会が主催として進行中。資金調達 商店会組合から補助金をいただくこととなっている。去年の課題はクリアで</p>	

<p>議題に対する検討 事項・決定事項・ 意見等</p>	<p>きた。周知、作品の取り扱い、保険等の懸念点は今後改善。商店会を含め前向きに取り組めている、課題は特にはない。</p> <p>質問 アートフェスとは別に様々なことをやられている。小規模のイベントも実施しているが、同じ視点で実施しているものなのか。</p> <p>回答 アートフェスは祭典として実施した。自治会で月に1回イベントを開催予定。自治会の文化継承を目標。大きい祭典に多少はつながればよいかなと考えている。 紙での広報が資金的に難しいので、活動は自治会にとどめている。現在は自治会内の活動を重要視している。</p> <p>意見交換 前回と同様に5人程度に分かれて意見交換し、出た意見を発表した。</p> <p>グループ① 近所にどのような人が住んでいるか知っていること。挨拶をする。行事に参加して知り合う。 新しい住人が多い。行事の参加等誘いにくい。 情報の提供ができていない。 ここに住んでいてよかったと思ってもらう。 Face to Faceの交流が必要 ソーシャルメディアで発信し、情報を取ってもらう つながるきっかけ：介護のサポート 遊びのサポート（遊び場の提供）</p> <p>グループ② 隣近所との繋がりが少ない ご近所さんとのつきあい、町内会との付き合いで地域のつながりになるのではないか。町内会の長所・短所を考えながら人に出てきてもらわなければならない。 情報弱者（スマホ、パソコン等見ることができない人）に対し、市民の家、コミュニティセンターで印刷して、情報提供する。</p> <p>グループ③ 地域、つながり捉え方は人による 商店街、マンション、交流を工夫 イベントがつながるきっかけ（BBQ、もちつき、地区レク） みんなで食事が良いがコロナ禍で難しい → 答えが出ない</p> <p>グループ④ 「地域のつながり」漠然としている。地域の概念。地域そのものをどの様に捉えるか。マンションは、他人との繋がりを求めている人もいる。 東り町アートフェスなど、地域から発信出来たら良い。 受け身で参加できない人をどう吸い上げるか。きっかけをどう与えるか。町内会、子ども会、老人会に頑張ってもらいたい。</p>
--------------------------------------	---

<p>次回までの 確認事項</p>	<p>1 まちづくり通信42号の内容</p>
<p>その他</p>	<p>特になし</p>
<p>次回会議 開催日時・場所</p>	<p>全体会 日時：2022年（令和4年）8月18日（木） 午後3時30分 から 場所：片瀬市民センター ホール</p>